

国家責任

助教授 濱本 正太郎
shotaro@kobe-u.ac.jp

以下の架空の事実関係に基づき、回答せよ。

オハヨ一国法に基づいて設立されたオヤスミ社は、コウベホテル会社(KHC、ヒョウゴ国政府が 100%支配する公法人)と、ロッコーホテルの賃貸開発契約(21 年 6 ヶ月間)を 1989 年に、ナダナダホテルの賃貸開発契約(25 年間)を 1990 年に、それぞれ締結した。ところが、オヤスミ社は、これら二つのホテルの状態が契約の定めるものよりも劣悪であることを理由に、賃借料の一部の支払いを拒否した。同社は、ロッコーホテルに関する紛争をヒョウゴ国法上の仲裁に付した。仲裁廷は、1990 年に裁定を下し、KHC に対してロッコーホテルを補修することを、オヤスミ社に対して未払い賃借料を支払うことを、それぞれ命じた。しかし、ヒョウゴ観光相を加えた交渉にもかかわらず、二つのホテルに関するオヤスミ社と KHC との間の紛争は継続した。

1991 年 4 月 1 日、ナダナダホテルは、KHC 所有のバス数台に乗ってきた群衆に占拠された。同日のほぼ同時刻に、ロッコーホテルは、KHC 職員によって占拠された。ヒョウゴ観光相は、遅くとも翌朝に占拠の事実を知りながら、何らの措置もとらなかった。1992 年に二つのホテルはオヤスミ社の支配下に戻されたものの、いずれのホテルも傷つけられていた。占拠に関係した者に対しては 2 名に罰金 200 ヒョウゴポンドが科されたものの、収監された者はおらず、罰金を科された 1 名は KHC の法務部長に昇進した。オヤスミ社は、KHC の契約違反を主張してヒョウゴ国法上の仲裁に訴えた。ロッコーホテルに関する仲裁裁定は 1994 年 4 月に下され、KHC はオヤスミ社に賠償を支払い、オヤスミ社はホテルを KHC に引き渡すべき、とされた。ナダナダホテルに関する仲裁裁定は 1994 年 9 月に下され、KHC はオヤスミ社に賠償するものとされた。しかし、ロッコーホテルに関する裁定はヒョウゴ裁判所により無効とされた。ナダナダホテルは 1995 年に KHC に引き渡され、ロッコーホテルは、1997 年に、KHC の申請に基づいて裁判所が任命した財産保全管理人に引き渡された。

問 あなたは、オヤスミ社顧問弁護士である。社としては、何とかしてオハヨ一国に助けてほしい。オハヨ一国外務省に説明に出向く準備として、オハヨ一国がどのような形で本件に関与することが出来るか、国際法上の議論を構成せよ。